

## Sesshu 雪舟没後 500年

Master of Ink and Brush: 500th Anniversary

雪舟さんまつわる謎の多くは、48歳で中国へ渡るまでのいわば前半生の中に潜んでいます。一体どこで、どんな家に生まれたのか、どこで修行したのか、とりわけ雪舟と号する以前、40歳代の半ばまで何と名乗って制作していたのかなどです。出家以前の地位や身分を不問にするというのが仏家のありようですから、出自を語らぬということに決して不自然とはいえません。しかし、彼は前半生すべてについて一切触れませんでした。その沈黙ぶりは意図的に隠そうとしていたことを想像させるのではないのでしょうか。

### 本朝画史が記す雪舟

それでは、誕生年から検証してみましよう。これは、例えば『山水長巻』のような制作年と年齢の両方が記された作品から逆算して、応永27年(1420)の生まれと知ることができます。当時の記録によると、この年は干ばつや飢きんのため、諸国に貧しい人が満ちあふれ餓死者も出るような災厄の多い恵まれぬ年だったようです。ところが誕生地関係となると、「備中」

で「姓藤氏」としか判明しません。これは雪舟とく親しい禅僧「庵桂悟」の証言によって確認できることです。ただし、備中のどこであるのかについての記述はなく、「備中赤浜(総社市赤浜)」という具体的な地名は、江戸時代17世紀後期の三つの史料によく見つけることができます。一つは笠岡の俳人「在田軒道真」が編纂した『吉備物語』であり、残る二つは広島藩の学者「黒川道祐」の著作『遠碧軒記』と、この道祐も関与してわが国最初の画家伝として編さんされた狩野永納の『本朝画史』です。これらのうち、当時公刊されたのは『本朝画史』だけで、京狩野当主の著述という權威をそなえた同書は、以後、大きな影響力を發揮します。実際、そこにはわれわれが有する雪舟に関する情報、一般的な知識のほとんどすべてが盛り込まれており、『本朝画史』が記した雪舟のイメージが後世の人々を支配したといってもよいでしょう。

岡山県立美術館学芸課長 守安 收



画聖雪舟生誕碑 (昭和12年成稿・同14年完成 赤浜)

総社市報

2006

5

No.14

平成18年5月1日発行(毎月1回1日発行)

発行/総社市役所 編集/企画課秘書広報係  
〒710-0202 岡山県総社市中央二丁目一番一号

電話0866(0)809-4 FAX0866(0)809-9  
Eメール kikaku@city.soja.okayama.jp

2006 MAY  
平成18年5月1日 No.14

総社市報

Soja City Public Relations

[市政トピックス] 5,6p  
女性消防団員誕生  
CATVの整備要望  
3月定例市議会

[輝いている人] 9p  
久野信行

[まちの話題] 9p  
まちづくり講演会 こどもホタルンジャー  
吉備路再発見講演会

特集◎平成18年度予算 2p

# 徹底した経費の削減 限られた財源を重点配分